



C O N T E N T S

- 2~3 【特集】 院長・副院長 対談
- 4 言語聴覚士のご紹介
- 5 新人看護教育研修の取組みについて
- 6 夏バテ対策情報
- 7 医療法人悠紀会からのお知らせ

基本理念 皆さまの健康で豊かな生活を支えるために、信頼される真心のサービスを提供します。

- 基本方針**
- 1、社会的役割・・・信頼される医療サービスを提供し、地域住民の健康で豊かな生活に貢献します。
 - 2、利用者さまの尊厳と権利の尊重・・・利用される方々の尊厳と権利を尊重した医療サービスを提供します。
 - 3、快適な環境・・・希望をもって豊かな生活を送ることができる環境づくりをめざします。
 - 4、チーム医療・・・全人的・総合的最善の医療サービスを提供する為に「チーム医療」を実践します。
 - 5、豊かな専門性・・・スタッフの人格形成はもとより、高度な専門知識の習得や技術の向上に努めます。

古森 顕一

Kenichi Komori



古森 顕一

< 役職 > 病院長 (兼: 地域連携部部长・診療技術部部长)
< 経歴 > 昭和63年 帝京大学医学部卒業
平成元年 熊本大学代謝内科入局
平成2年 公立玉名中央病院循環器科勤務
以後、循環器科科长、循環器科部長、診療部長就任
平成27年 医療法人栄和解泉川病院副院長に就任
平成29年 医療法人悠紀会病院副院長に就任
平成31年 病院長に就任
< 専門領域 >
循環器全般、特に狭心症と心筋梗塞に対するカテーテルインターベンション
(冠動脈内ステント留置術、バルーン拡張術等)、ペースメーカー埋め込み術
< 資格・所属学会 >
日本内科学会認定医、日本循環器学会、日本リハビリテーション医学会

【特集】院長・副院長対談

春から新体制になった悠紀会病院において、 院長と副院長で今後の課題や方向性について 想いを語っていただきました。

お二人は悠紀会病院に勤務される前からお知り合いましたのでいかがですか？

古森 井手先生が玉名地域保健医療センターに勤務されておられた時から存じ上げていて、日頃からの活躍もよく伺っていました。また、その頃から医師会の活動を通じて優しい人間性を感じていましたね。

井手 ありがとうございます。古森院長は当時、公立玉名中央病院に勤務されておられましたが、合同の宴会にご一緒した時に司会を務められており、とても職員さんの心をつかんでおられることがとても印象的でした。まとめ役としてもカリスマ性がある先生だなと感じていました。

医師としての志や目標はありますか？

井手 これは今も変わっていないのですが、「なりたくて病気になる人は誰もいない」ので、患者さんに対しては「安心とやすらぎを与える」ことを第1に考えています。

古森 科学者としての立場は当然のことながら、一社会人としても患者さんに接し、お互いに信頼関係を築いていくことが大切であると思っています。井手先生とも共通ですが、やはり患者さん第1ということは不変だろうと思っています。

医師や病院管理職という重責にあるお二人ですが、日頃の心がけや楽しみ、趣味、息抜きはどうされているのでしょうか？

井手 仕事に限らず、遊びでも「置かれた場所で咲きなさい」を信条に、お誘いがあれば断る理由が無い限り乗ってみることにしています。職場だけでなく、趣味(ゴルフ・テニス・麻雀)にも誘っていただけるだけで有難いと感じています。ただ、今はコロナの影響もあってなかなか難しいですね。

古森 確かに、まだまだ以前のようには自由に動けないのがもどかしいですね。私はそのような中で、毎日必ず空を見上げて小さな自分から解放されるイメージをもつようになっています。また、これは幼い頃から続けていることですが、大好きなサッカーは今でも現役プレイヤーです。

井手 仕事は緊張の連続ですから時々息抜きをしないと良い仕事はできないと思います。
古森 医師も人間なので、長く続けて行くには自分の管理も重要ですね。

悠紀会病院の課題や改善が必要なことは何だと思われますか？

古森 まず、患者さんへのサービス向上を更に図り、早期の病状回復や早期退院をもっと

井手 正美

Masami Ide



井手 正美

< 役職 > 副院長(兼: 診療部部长)
< 経歴 > 昭和55年 鹿児島大学医学部卒業
鹿児島大学医学部第三内科入局
昭和57年 熊本大学医学部第一内科入局
昭和59年~昭和63年 熊本大学医学部大学院
昭和63年~平成19年 山鹿市立病院
平成19年~平成23年 山鹿中央病院
平成23年~令和3年 玉名地域保健医療センター
令和3年~現在 悠紀会病院
< 専門領域 > 神経難病(主にパーキンソン病)
< 資格・所属学会 > 医学博士、日本内科学会認定医、日本神経学会専門医・指導医、
認知症サポート医日本内科学会、日本神経学会、日本消化器内視鏡学会

促していければと思います。そのためには職場環境の整備、業務の簡素化と効率化を進めて働きやすい職場にしていかなければならないと思っています。

井手 そうですね。私も着任当初から感じていましたが、各々の職種においてまだまだ手作業や紙運用が多くて非効率なところがあること、何かお役所的な縦割り社会の傾向がある感じがして、物事の決定までの時間が長いことも変える必要があると思っています。

少し視点を変えて、悠紀会病院の自慢できるところや誇れるところを教えてください。

古森 日頃からできる限り多くの職員と接するよう心がけている中で、当院の職員は優しくて真面目な人が多いと感じています。また、良い意味でお互い気を遣い合い、助け合う習慣もあるので、そういうところは誇らしいと思っています。

井手 人は大切ですよ。私は全体の機能やサービス面からも考えてみましたが、病院併設の介護老人保健施設があり、更に在宅支援サービスを含めて全体で多機能なケアと支援が可能なことが重要と思います。また、多職種でのチーム医療で患者さんや家族に安心感を与えることができ、長期入院や看取りにも意向に沿った医療ができることは今後も重要な自慢できる部分だと思います。

古森 確かにそうですね。当院は回復期リハビリテーションによる在宅復帰と長期療養が必要な方々への支援、在宅での支援も含めて一体的に取り組むことができる場所なので、これは地域にとって大切であると思います。

様々な場面で「連携」が重要ということがよく

言われますが、医療機関や医師間での連携についてどうお考えでしょうか？

古森 他の医療機関との連携はとても重要で、それを深めるためにはお互いの顔が見える関係にならなくてはいけないと思います。そのためにもまず、当院がもっとレベルアップする必要を感じています。

井手 そうですね。当院は療養型の病院として、その役割を十分に果たすことができるようご紹介いただいた患者さんは、できる限り早く受け入れることができますね。

古森 それぞれの機能や役割をお互いに理解しながら取組み、この地域に必要な流れとして機能を発揮し続けることが大切だと思います。そういった事例を通してながら医療機関や医師相互の信頼が蓄積できると良いと思います。それは医師以外でも、様々な職種間でもあつてよいと思います。

最後になりますが、悠紀会病院としての将来の目標や悠紀会病院の将来像についてどうお考えでしょうか？

井手 早急に必要なと思うのは、当院においては時代に沿ったデジタル化の推進による仕事の効率化と確実性があると思います。また、法人内外問わず、様々な機関やサービス同士の連携については、もっと地域の中心的存在として機能できると考えます。

古森 とても大事だと思います。特に当院の機能はもっと高めて行く必要を感じています。残念ながら、まだまだその機能や役割が広く地域に浸透しているとは思えないので、これからも努力し、発展させていく必要があると思います。それが私達の役目であり、地域の皆様に対して少しでもお役にたてるように寄与していきたいと思っています。



言語聴覚士のリハビリテーションご紹介



～ 私たち言語聴覚士 (ST) は、話す、聞く、食べるの専門職 ～

ことばによるコミュニケーションには、言語、聴覚、発声・発音、認知などの各機能が関係していますが、病気や交通事故などで機能が損なわれることがあります。私たちは、ことばによるコミュニケーションに問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活が構築できるよう支援する専門職です。また摂食・嚥下の問題にも専門的に対応しています。

① 言語障害

- ・上手く話せない
- ・話が理解できない
- ・文字が読めない

② 音声障害

- ・咽頭がんなどで声帯を失い、声が出にくい

③ 嚥下障害

- ・上手に噛めない
- ・上手に飲み込めない
- ・むせが多くなった



嚥下訓練の様子

今年から、咽頭感覚を改善する機器ジェントルスティムを併用して嚥下訓練を実施しています。



さらに当院では、外来で嚥下造影 (VF) 検査や訪問リハビリも実施しています。



外来 嚥下造影 (VF) 検査



訪問リハビリ



私たちが笑顔で
対応させていただきます

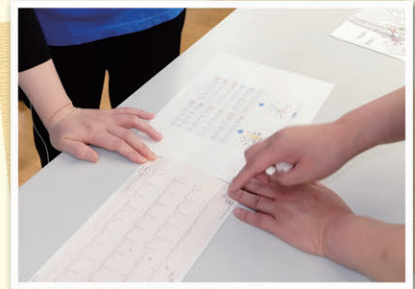
当院の言語聴覚士は、院内リハビリだけでなく、外来での嚥下造影検査・外来リハビリ、訪問リハビリ、老健施設の入所および通所リハビリでも活動しています。

また玉名市委託事業「通いの場」でも地域に向けた専門的な助言も行っています。

新人看護教育研修を実施しています

これまで新入職者教育に関しては計画が十分とは言えず、課題となっていました。そこで改めて新人やブランクのある職員が抱える不安を軽減することが重要として、病棟ごとではなく全体での合同研修を実施しています。先輩看護師達は、「看護師・社会人として初めて勤務する方、ブランクがある方」に対する研修方法や内容を模索しながら計画し、緊張しながらも指導することができ、新人等も早く慣れることで病院全体の活性化につながっています。

研修時の様子



入職時研修を受けて



ブランクS氏

ストレッチャーは、初めて乗りましたが、患者さんはとても不安に感じていることが良く分かりました。これから介助する際は一つ一つ丁寧に声をかけ、安心につなげるようにしていきたいと改めて思いました。



新人T氏

いかに患者さんに安心・安楽に過ごしてもらうか、苦痛を最小限にした援助を行っていく事が大切か先輩看護師さんから話を伺ってとても良い学びになりました。また、実技を交えた研修はイメージしやすく分かりやすかったです。

勤務について2ヶ月。今はまだ先輩に指導してもらいながらの業務ですが、あこがれの看護師になったので頑張ります。

夏を元気に過ごそう！ 今すぐ始めたい夏バテ対策♪



「体がだるい」「食欲がない」「疲れやすい」「寝不足」などといった夏の暑さによる体調不良を『夏バテ』と呼びます。高温が続く夏では、体内の温度調節を行う自律神経の働きが乱れ、うまく調節できなくなってしまうことが原因とされています。

《夏バテチェックリスト》

- 最近食欲がない
- 朝食を食べない
- 水分をあまりとらない
- あっさりとした食事が多くなりがち
- 同じ様なメニューで食事が偏っている
- 冷たい料理や飲み物をとることが多い

1つでも当てはまる項目がある人は夏バテに要注意です！



夏バテ予防・解消のための4つのポイント！

1 食事の質を考えましょう

食欲がなくても1日3食、しっかり食べることが大切です。食事は、主食・主菜・副菜をそろえるとバランスがよく十分な栄養がとれます。



2 香辛料を上手に使いましょう

生姜やワサビなどの香辛料、ネギやしそなどの香味野菜は、食欲を増進してくれます。食欲のない時に、上手に利用すると料理の味が引き立ちます。



3 ビタミンB1をとりましょう

ビタミンB1が不足すると栄養をエネルギーに変換することが出来ずに疲れやすくなります。豚肉、魚・うなぎ、大豆製品、緑黄色野菜は、免疫力アップや疲労回復に良い食材です。



4 規則正しい生活をしましょう

夏場は、気温が低くなる夜の方が活動しやすいため夜更かしをしがちになります。生活リズムが崩れると疲れがとれにくくなるので、規則正しい生活をするようにしましょう。



挽肉と茄子のカレー炒め 材料/2人分

- 豚挽肉……………(100g)
- なす……………2本(160g)
- 玉葱……………1/4個(50g)
- パプリカ……………1/4個(40g)
- A [ニンニクのミジン切り……………1/2かけ
- オリーブ油……………大さじ1
- トマトケチャップ……………大さじ強
- カレー粉……………小さじ1.5
- B [コンソメ(顆粒)……………小さじ1
- 水……………大さじ1

〔作り方〕

- ①なすは、へたを除いて縦半分になり、斜め薄切り(幅1.5cm)にする。玉葱とパプリカは、1cm角に切る。
- ②フライパンにAを熱し、香りが出てきたら、挽肉を加えほぐすように炒める。
- ③挽肉に火が通ったら、なす・玉葱を加えて炒め、全体的に火が通ったら、パプリカと混ぜ合わせたBを加えて炒める。
- ④お皿に盛りつけると出来上がり。



《1食分》

- ・エネルギー… 229kcal
- ・タンパク… 10.6g
- ・脂質… 15.0g
- ・塩分… 1.0g

・医療法人悠紀会からのお知らせ・

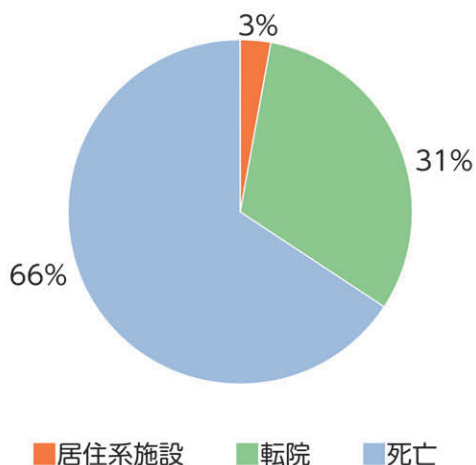
病院機能評価受審の認定証が届きました 令和4年3月17日(木)・18日(金)

春号でもお伝えしました通り、令和4年3月17日(木)・18日(金)に病院機能評価を受審した際の認定証が届きました。当院は3回目の受審でしたが、前回よりも全体の評価は向上しており、日頃の取り組みが着実に進んでいることを感じています。ただし、病院の質の向上にゴールはありませんので、改めて職員一丸となって改善を継続していききたいと思います。

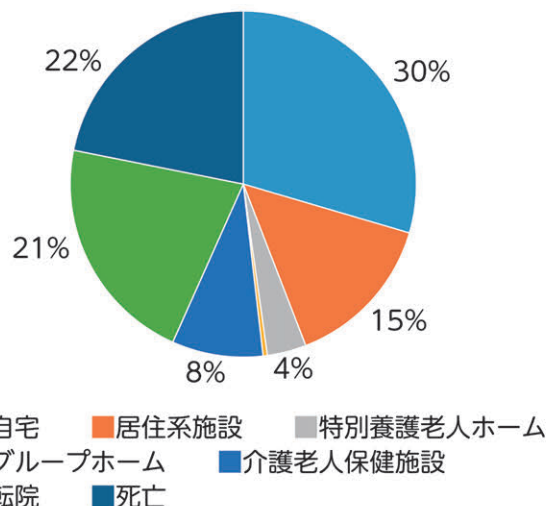


診療実績のご報告

2021年度 介護医療院退所先割合



2021年度 病院転帰先割合



外来診療担当医表

診療時間【午前9:00～午前12:00(受付午前11:30まで)、午後1:30～午後5:00(受付午後4:30まで)】

診療科	月	火	水	木	金
内科	紫藤 忠博	高木 和男	松村 利昭	高木 昭宏 紫藤 忠博	
循環器内科			古森 顕一		古森 顕一
リハビリテーション科		伊勢 紘平 (整形外科)			山崎 裕子
脳神経内科		井手 正美	井手 正美		

診療科

- 内科
- リハビリテーション科
- 循環器内科
- 脳神経内科
- 呼吸器科
- 消化器科
- 歯科(予約制)

相談、その他

- 外来・訪問リハビリテーション相談
- 摂食嚥下相談
- 整形外科相談

病棟構成

入院病床数 139床

回復期リハビリテーション病棟	32床
医療療養病棟(3階)	50床
医療療養病棟(4階)	57床

診療設備

- マルチスライスCT撮影装置
- X線テレビ装置
- 一般用X線装置
- PACS(医用画像管理システム)
- 超音波診断装置
- 心電図モニター
- 生化学自動分析装置
- 感染症遺伝子解析装置

関連事業所

- ◆訪問リハビリテーション 悠紀会病院
- ◆介護医療院 ゆうきの里
- ◆介護老人保健施設 ゆうきの里
ゆうきの里 通所リハビリテーション
介護相談センター ゆうきの里(居宅介護支援)
- ◆グループホーム ゆうきの家
- ◆小規模多機能ホーム ライフサポートいわさき
- ◆小規模多機能ホーム しいの木の里(山鹿市)
- ◆社会福祉法人ゆうき会
特別養護老人ホーム ケアタウン光の森(菊陽町)

アクセス

悠紀会病院



〒865-0011

熊本県玉名市上小田1063番地

TEL 0968-74-1131 FAX 0968-74-3821

ホームページ <http://www.yukikai.or.jp>



各種相談については、地域連携室へお尋ねください。

TEL 0968-74-1131

※お電話による問い合わせは、月曜日～金曜日の午前9時～午後5時までとなっております。